

平成30年度第2回精華町社会教育委員会議 会議録

■日時

平成30年5月14日（月）午後1時30分から3時まで

■場所

精華町立図書館1階集会室

■出席委員

- ・清水 眞理子 ・上村 卓三 ・白畑 丈子 ・高鍋 房美 ・吉川 博文
 - ・尾崎 麻由美 ・谷 譲二 ・堀内 保寛 ・村上 栄
- （欠席：田中委員、瓦委員）

■出席事務局職員

- ・教育長：太田 信之
- ・教育部長：岩崎 裕之
- ・教育委員会教育部生涯学習課長：石崎 勝巳
- ・教育委員会教育部生涯学習課社会教育係長：河西 聖子

■傍聴者

なし

■内容

【会議】

1 開会

吉川委員長

2 教育長あいさつ

太田教育長

- 今日は欠席だが、校長会から瓦校長に新たに就任いただいた。あと1名が欠員状態だが、6月に公募を行う。次回からはフルメンバーで行える。
- 京都府教育長会議で京都府の重点事項5点を伝えられた。1点目は教育指導要領改訂、2点目はいじめ対策である。3点目が働き方改革で、教職員の過剰負担を解消するために、出退勤管理、部活動などがあげられていた。加えて、学校の運営を助けていくという意味で、コミュニティスクールを京都府教育委員会として本腰を入れて進めたいとのこと。精華中学校ではシニアスクールという特色ある活動を取り入れている。他の2中学校区や小学校へも学校に合わせて取り入れて形あるものにしていきたい。校長会でも申し上げたが、社会教育委員としてお知恵をお借りしたい。なお、4点目は先生の世代交代の人材育成、5点目はセクハラ等の不祥事の防止で

ある。

- 今年度の事業を審議する中で、子ども祭りの従来のスタイルを変える。お知恵をお借りしたい。

3 議事

(1) 今年度の取組について

吉川委員長

- 教育長からコミュニティスクールの話があったが、社会教育法が改正され、「地域学校協働活動の推進」が加わった。地域と学校が連携・協働し、幅広い地域住民や保護者等の参画により、地域全体で子どもたちの成長を支え、地域を創生する活動である。例えば、地域清掃活動、登下校見守り、花壇整備、協働防災訓練、学習・スポーツ活動の支援、職場体験や農業体験など。そのために、地域学校協働本部事業の推進、コーディネーターや地域ボランティア等の整備、地域学校協働活動推進員の設置などを行っている。地域と学校との連携はますます大事になっている。
- しかし地域に力はあるのかと、区の役員で先日も話をした。菱田では子どもが減り、夏祭りも子ども会では運営できない。家族構成の変化、生活意識や労働環境の変化、価値観の多様化により、コミュニティ・共同体としての意識が薄れている。どうすれば、みんなが地域意識を持てるのか。
- 地域活動の成り手がいない。後で自分の地域でどうかお聞きしたい。ある会議で「40年後に市町村が消滅する」との発言があった。共同で動かなければ町や地域が動かない。子どもの数が減っており、しかも子どもは便利な京都や大阪へ出ていくこともある。家族ごとの場合もある。耕作放棄地や空き家が増え、農業や神社のお祭りは継続できるのか、地域としてやっていけるのか。逆に学校の支援をすることによって、地域意識を持ってもらうという考え方も必要ではないか。地域と学校の協働の前に、地域の実態を知りたい。

清水委員

- 柘榴地域在住。既存地域が多く、自治会組織は昔から変わらない。役員は1回評議委員に選ばれると、評議委員5年、その後自治会長、区長と、少なくとも12年地域活動を担当する。神社の氏子総代、檀家総代も複数年続く。消防団は危機が迫っており、消防署があるのになぜ地域で見回りもしないといけないのかという意見がある。子ども会も人数が減り、夏祭りの運営が難しい。その上、けがや食中毒を心配する声もあり、子どもがふるさととして地域で楽しめるようにとの思いからだが、現在は夏祭りが中断している状況。一旦中断すると復活が難しい。老人会は元気の方もいるが、まだまだ男性中心。女性の方が人数が多いが、女性の意見はなかなか吸い上げられない現状がある。

上村委員

- 山城ロータリークラブという団体に奉仕活動を行っているが、ロータリークラブがどんどん衰退している。社会奉仕の気持ちから一定額の会費を払って集ま

っているが、組織がエゴイズムにより存続できなくなっている。自分さえよければいいという考え方が横行しているように感じる。日本文化の危機、民族の危機である。

白畑委員

- 女性の会会長。支部長は毎年変わるところと変わらないところがある。役を負擔に感じる方もあるのか、役が代わらない方が安心して入会できるという声もある。個人会員も受け付けている。活動は男女共同参画など幅広く、入っていて楽しいし勉強もできるとの声がある。今のところ活発に活動できている。

村上委員

- 菅井地域在住。子どもが少なく、子ども会の活動が縮小、運動会も3年連続で出場しない。自治会の役員は会計のみ選挙で交代し、3年間で終わりと制度を変えた。耕作放棄地があるが、地域の岩井さんが耕作放棄地を開拓してケールを作ってくれており、自分も関わっている。個人では無理なので、協働して組合的なものを作って活動している。老人会は元気で、秋祭りについて、実行委員会を作って、子ども会、消防団も巻き込んで行っている。

堀内委員

- 南稲地域在住。自治会長を2年間務め、今評議員で2年、計4年間役を担う。地域活動は多く、行事も多い。運動会、夏祭り、自主防災などがある。自主防災では祭りが12月にあり、炊き出しなど活発。運動会も参加。体育委員も別にあり、30名ほどの組織で活発に活動。神社、お寺の役員もある。3月には趣味の発表会もあり、地域の方40名、子どもさんも相楽作業所からも作品を出して頂き盛大に行われる。5日間準備や運営などを行う。プロ級の絵画を発表される方もあり、写真や書道やいろいろな種類があり活発。

谷委員

- 桜が丘1丁目在住。順番に班長を回していたが、ここ何年かは立候補による。一長一短である。高齢者の会はカラオケやマーじゃんなど活発である。子ども会に入る人が少なく、体育大会は出られないと聞いた。見守り隊などを熱心に行っている方もいる。さくら会というのがあり、年末の見回りやもちつき大会を行ったりしている。ゾーン30の活動もある。

尾崎委員

- 光台8丁目在住。自治会、子ども会の班長は順番に回り、会長はくじ引きで決まる。なんとか運動会も参加を続けている。老人会は登下校のスクールヘルパーとして地域の見守りが活発。消防団はないが、自主防災会がある。

高鍋委員

- 桜が丘1丁目在住。自治会は当初はなく、現在も任意加入。阪神大震災のとき自治会がしっかりしているところは物資がちゃんと行き渡ったと聞いており、人のつながりが大切と言われた。やはり自治会はしっかりある方がいい。スクールヘルパーとして、良かれと思ってもちつきなどをしたが、衛生面で心配との声があったり、気持ちの持ちようや対応が難しく、無くなった。

- キレル高齢者が増えていると言われていたが、高齢者が増えているので、キレル人も増えていると考える。また、人と関われない若者が増えていると言われる。社会教育委員として、人の繋がりが課題。数年前の社会教育の研修会で、‘見て見ぬふりからおせっかいへ。私的親から社会的な親へ’がテーマだった。まさに今である。全体を見て考えるというのが難しい時代。

吉川委員長

- ふれあいサロンの代表者の会「華寿の会」での配布資料を見ると、人口や高齢化率、子どもの数、高齢者ふれあいサロンの数などが地域ごとにわかる。旧村地域の高齢化率は40%を超えている。菱田も60～70%は既存住民、新興住宅地域もあると入り混じっている。
- 高齢者の活動が活発な桜が丘、光台、精華台にサロンがある。老人会もあることがわかる。最近、体操クラブに役場が力を入れている。
- 今日は交流のような形で話し合いをしたが、資料も見ておいてもらいたい。

◎具体的な活動について

吉川委員長

- 精華中学校のコミュニティスクールの実態、例えばコミュニティスクールの成り立ちや活動について勉強したい。会長の岩井三郎さんから活動内容を聞いたり活動カレンダーを見たり、断片的には知っているが全体を知りたい。
- 社会教育の活動拠点はむくのきセンターや図書館である。それぞれの活動について勉強して、我々が協力できればと思っている。地域で頑張っているのは、先頭に立つ人がいるからであり、人が動くから地域が動く。そして拠点が人の次に大事。精華町の拠点の勉強もしたい。
- この2つを考えている。ご意見などあればいただきたい。
- 谷委員へ、むくのきセンターなど体育施設の状況を見るのはどうか。課題は何で、どうすれば人が増えるのかなど。

谷委員

- いろいろ考えて取り組んでいる。料理に力を入れ先生を雇ったり、事業を考えたりしている。

吉川委員長

- 2つの案を出したが、精華中学校のコミュニティスクール視察でどうか。
→同意多数

村上委員

- 同意する。視察受入も多いと聞く。澤井校長が、生徒指導が大変なときに、学校に地域の方が入っていただくことがいいと考えるところから始まり、劇的に子供たちが変化していったと聞いている。

吉川委員長

- 今年の実組はコミュニティスクールから学ぶということで決定する。
- 教育委員会との懇談会を今年も行う。次回以降に向けて、テーマを考えてお

いてもらいたい。

(2) 平成30年度山城地方社会教育委員連絡協議会総会について

資料3参照。6月15日に久御山町役場で開催。

出欠確認（清水、尾崎委員欠席）。マイクロバス要確認。

(3) 平成30年度社会教育事業（予定）について

資料4参照。年間予定として、6月29日に大山崎町で開催。

先月配布分から、わかる範囲で時間を追記。9月6日を新規追加。

9月7日は近畿地区社会教育研究大会で和歌山市へ。

(4) 社会教育委員欠員の公募について

資料5参照。6月1日～29日公募受付。初めての公募の試み。

(5) その他

・あいさつ運動について

資料6参照。それぞれ依頼状もお渡ししている。例年通り3回実施。

6月期として、6月1、4、5日であいさつ運動を行う。

清水委員

教育委員との懇談会について、昨年度開催時間が夕刻で余裕がない状態だったので、今度はゆっくり時間を取りたい。

吉川委員長

開催日と時間は事務局で調整をお願いしたい。

(6) 次回委員会議

平成30年8月27日（月）午後1時30分～

◎閉会のあいさつ

高鍋副委員長

- 新潟で下校時の女兒殺害事件があった。あまり人が外に出ない、「魔の3時」と言われる時間帯である。大人の目が行き届かない時に子どもが帰る。子どもが飛び込める場所がない。家にいる方はできるだけ3時代に外に出たり、集会所を使うなど考えていければいいと思う。

5 閉会